

埼玉・大宮でのスペシャル・セッション「気象予報技術」

初の埼玉・大宮大会へスペシャル・セッション「気象予報技術」を呼びかけたところ、9件の応募があった。大会2日目の当日、会場は100名を越す参加と活発な質疑応答で盛会であった。

発表のうち5件は、気象庁の計算機更新に伴いこの3月からスタートした新しい数値予報モデルに関するもの。気象庁数値予報課の会員により、当日の予報が例示されたり、この3か月の予報成績が示されるなど、リアルな発表にとりわけ関心と呼んだ。このような発表が早い時期に一般公開の場でなされるのは気象学会以外にないと思う。一方予報資料として出される数値予報のプロダクトの量もますます膨大になり、これを有効に予報に活用するため人工知能技術の導入が求められているが、これに関しても気象庁予報課と気象研究所の会員から3件の発表があった。最後にオク

ラホマ大学から民間気象会社で技術指導をされている佐々木嘉和会員により、アメリカ NEXRAD ドップラーレーダを用いた予測例を示す発表があった。数値予報が間に合わないシビアウェザーの「ナウキャスト」もまた気象予報技術の重要な課題である。

大会参加者数は過去最高を数え、一般会員のほか会員外の参加増が目だった。気象予報士制度の発足に伴い、気象予報技術への新たな関心の高まりも反映しているものと思われる。今回はスペシャル・セッションとして行ったが、今後もなんらかの形で気象予報技術を直接取り上げたセッションを設けて気象予報技術のPRに役立てたいと思う。

(東京学芸大学 丸山健人
東京大学海洋研究所 木村龍治)